

令和３年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。	今年度の 重点目標	1 主体的な学びの推進 2 豊かな人間性の育成 3 地域に信頼される教育の展開 4 働き方改革の推進

年 度 当 初					最 終 評 価（分掌・学年名）	
評価項目	具体項目	現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 主体的な学 びの推進	アクティブ・ラー ニング等による授 業改善と適正な評 価	I C Tを活用したアクティブ・ ラーニング型授業を各教科で実践 するとともに、開講科目ごとの ループリックを作成してパフォー マンス評価を実施している。	・教員の授業スキルの向上 ・授業アンケート「この授業は自分 にとって満足のいくものだった」 の問いに、肯定的な回答90%以上	・授業アンケートを全教員が確実に実 施し、授業改善を行う。 ・各教科ともループリックを作成し、 パフォーマンス評価を確実に実行す る。 ・chromebookを活用した授業展開の工 夫や課題等の配信を行う。	・授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に、93.7%の生徒が肯定的な回答をした。 ・開講科目ごとにループリックを作成し、パフォーマンス評価を行い、生徒の総合的な学力評価を実施した。 ・chromebookについて、校内外の研修会に参加するとともに、各教科とも研究授業を実施し、授業展開の工夫を行った。また、クラスの連絡や課題の配信等にも積極的に活用した。	B
	S S H事業による 科学的探究心・情 報発信力・実践力 の育成	各種科学コンテスト・土曜授業等 実施事業への参加など内外コンペ に積極的に打って出ている。 ・総参加者 71件・1256人 ・予選を通過して上位大会へ出場 した者 12件・52人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施 事業への参加など内外コンクールやコ ンペへの参加者数 ・総参加者 50件・800人以上 ・予選を通過して上位大会へ出場す る者 10件・100人以上	・「打って出る」目標と研究を結びつ ける取り組みを継続する。 ・学校設定科目「課題探究基礎」 「課題探究応用」「課題探究発展」 によって、主体的探究活動を推進す る。	・12月末までの内外コンクールやコンペへの総参加者数は78件・992人であった。その内、上位大会へ出場する者は13件・45人であった。「科学の甲子園」全国大会出場やグローバルサイエンスキャンパス全国発表会文部科学大臣賞受賞など全国規模での生徒の活躍が見られた。 ・「課題探究基礎」では、chromebookの効果的な活用について取り組んだ。 ・「課題探究応用」では、「打って出る」をスローガンにした目標と研究を結びつける取組により、主体的に探究活動を行う生徒が増加している。今年度より中間発表を他の教員へ公開した。 ・「課題探究発展」では、全生徒が英語論文の作成を行うとともに、探究の成果を進路につなげる取組を行った。	A
	進路指導の充実	国公立大学合格者269名（うち、現 役合格者206名）、難関大学合格者 61名となった。	・国公立大学合格者200名以上 （現役合格者170名以上） ・難関大学合格者70名以上	・総合型選抜入試、学校推薦型選抜入 試を適切に活用する。 ・二次試験対策の強化（授業・講習）	・夏期講習、冬期講習、3年次の放課後講習を対面型で行い、多くの生徒が積極的に受講し意欲的に学習した。受講者のべ数の過年度比較は以下のとおりであった。 夏期講習（1年次 330名⇒299名 2年次 73名⇒92名 3年次 308名⇒303名） 冬期講習（1年次 146名⇒164名 2年次 104名⇒114名）3年次放課後講習（1916名⇒1361名） ・面談や進路L H Rを活用するとともに、3年次生では総体前から放課後講習を行い、生徒の進路意識を高め、授業や講習を通じて二次試験学力の向上に努めた。11月進研記述模試全国平均点偏差値の過年度比較は以下のとおりであった。 （1年次 R2:61.0⇒R3:61.4 2年次 R2:60.5⇒R3:59.3 3年次 R2:55.6⇒R3:56.0） ・国公立大学総合型選抜入試に25名、学校推薦型選抜入試に31名が出願した。（R2：総合型26名、学校推薦型31名）。	B
2 豊かな人間 性の育成	主体的・自律的態 度の育成	・環境整備委員会を中心に、掃除の 徹底を行っている。 ・総遅刻者数は延べ287人で対前 年度比19%増であった。 ・問題行動件数は5件であった。	・規範意識の高揚 ・品格と矜持をもった振る舞い ・主権者意識の高揚 ・T E A S の推進 ・遅刻者数対前年比20%減 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底 ・お掃除マイスターによる講演会、 主権者教育など、各種領域教育を 実施し、社会参画への態度を育成 する。 ・遅刻確認票による遅刻指導の徹底 ・自転車用ヘルメットの着用を推進 する。	・12月末までの総遅刻者数が、前年度比0.6%増（R2:178人⇒R3:179人）であった。 （1年次生R2:70人⇒R3:48人 2年次生R2:55人⇒R3:80人 3年次生R2:53人⇒R3:51人） 2年次生で増加しており、遅刻確認票などによる遅刻指導を徹底していく。 ・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の間に、94.8%の生徒が肯定的な回答をした。廊下で挨拶する生徒が増え、落ち着いて学校生活を送っている。 ・自転車用ヘルメットは1年次生は着用しているが、2・3年次生の着用率は1割程度と低い。マナーアップさわやか運動や生徒会の取組などで安全意識向上を指導する。 ・問題行動件数0件（12月末現在）。今後も普段の生徒指導を徹底し、未然に防止するなど迅速で適切な対応をしていく。	B
	部活動の奨励	新型コロナウイルス感染症の影響 で大会が中止になったり代替大会 となったが、各部が活躍し、生徒 相互の良い刺激となっている。	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活 動を増やす。 ・「部活躍報告」を行うことよって、 賞賛する機会を設ける。	・硬式野球部が夏の甲子園大会出場、全国高校総体女子高飛込で4位、全国高校囲碁選手権団体で7位に入賞した。中国大会に出場した部活動・個人は42（R元）から54へ、全国大会に出場した部活動・個人は23（R元）から33と増えた。（12月末現在）（*R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、すべての部活動で中国大会・全国大会が中止となったため、R元年度と比較した。） ・「部活躍報告」で県大会等で上位に入賞した部活動を表彰し、賞賛する機会を設けるとともに、H Pに掲載した。また、始業式・終業式において部活動等で活躍した生徒の報告会を設け、オンライン配信で全校に紹介した。	A
	体験的な学びの推 進	国際交流・人権教育などを通して 多面的な教育を展開しているが、 追求する姿勢が足りず、妥協して いる生徒も多い。	・人権教育の推進 ・異世代・異文化交流の推進 ・読書活動の充実 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求す る生徒の育成	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 海外研究機関とのオンライン交流 ・体験型ワールドカフェ形式の人権教 育公開L H Rの実施	・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、昨年度に引き続き各種の国際交流が中止になる中、生徒20名が台湾桃園市立陽明高級中学との英語によるオンライン交流を行い、S D G sにおける食の問題について話合った。また、沖縄科学技術大学院大学によるオンラインツアーに参加するなどして、国際交流の代わりとなる体験の場を設けた。 ・人権教育L H Rは、1年次は体験型ワールドカフェ形式で行い、2年次は同和問題について学び人権意識を高めた。3年次はS D G sについて学び、国際課題に対してどのように貢献できるかを学んだ。	B
3 地域に信頼 される教育 の展開	P T A活動の推進	P T Aの各委員会（総務、人権教 育推進、生徒育成、進路）が役員 主体で活発に活動している。	保護者と教職員の連携強化によるP T A活動の更なる活性化	P T Aのニーズに対応した事業内容の 見直しを進める。	・P T A各委員会は、委員長が主体となり学校の担当教員と連携を取りながら、制限がある中でも講演会や意見交換会などの積極的な活動を行った。 ・「米東だより」104・105号・教職員紹介号を予定どおり発行し、P T A活動の広報に努めた。 ・人権教育推進委員研修会、P T A人権教育講演会を実施し人権教育の推進に努めた。また、機関誌「ロゴスのこころ」の発行を年2回行った。	B
	地域への発信	・積極的な情報発信を行い、学校 理解を進めている。 ・学校運営協議会を開催し、地域 住民の理解と協力を得た学校運 営を行っている。	・積極的な学校情報の発信による地域 ・保護者への学校理解の促進 ・地域との連携強化や学校運営協議会 との適切な連携・協働による地域と ともにある学校づくり	ホームページにより積極的に学校情 報を発信する。 ・学校運営協議会を定期的に開催し、 熟議をして地域等との連携を深めた 学校運営を行う。	・学校行事の際は積極的に取材に赴いたり担当分掌や教科からの依頼に応じたりしてH Pに掲載した。12月末までのH Pの更新回数は132回（昨年度188回）であるが、生徒の活躍や学校生活の様子をタイムリーに発信することができた。 ・H Pやマチコミメールで、新型コロナウイルス感染症感染予防に係る情報を随時保護者に発信し、予防対策に努めた。 ・学校運営協議会を感染予防に工夫しながら開催し、地域連携を含めて積極的な意見交換を行い、いただいた提言を学校運営に生かした。	B
4 働き方改革 の推進	時間外業務時間の 削減	教職員の1人あたりの時間外業務 時間は令和2年度は11.7時間／月 であった。	教職員の1人あたりの時間外業務時間 対令和2年度比5%減	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係 る方針」を遵守する。	・時間外業務時間が多い職員を個別に指導するなどしたが、12月末までの教職員の時間外業務時間はR元年度より減少しているものの、昨年度より増加した。 （R元：19.4時間／月 ⇒ R2：12.5時間／月 ⇒ R3：13.8時間／月） ・教員業務アシスタントと連携し、一部の業務を任せることで教職員の業務の軽減を図った。	B
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業 務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会 の開催回数を削減する。	会議の回数削減等による業務の効率化 を進める。	・事前協議を徹底し会議時間の削減を図るとともに、11月をノー会議月間と定め、必要最低限の会議のみを行った。 ・定例の会議を行わず、日常のコミュニケーションを図ることで業務の効率化を行う分掌もある。	B

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要